

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894000278		
法人名	株式会社 あっぷる		
事業所名	あっぷるグループホーム姫路 (東ユニット・西ユニット)		
所在地	姫路市神屋町5丁目48番地		
自己評価作成日	平成26年11月22日	評価結果市町村受理日	平成27年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [x.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2014\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=289](http://x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=289)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館 6階		
訪問調査日	平成26年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では地元企業と共同開発した見守りセンサーを各居室と室外に設置を行い、緊急時に即対応できるシステムを構築しております。部屋に自由に行き来することができ、利用者様にご自宅と同じように自由に安心して過ごして頂くことができます。また自宅でされてきた家事を継続するなど外出や外食など楽しんで頂く支援もしております。ご家族・昔からのご友人など自由に来訪できる雰囲気作りにも努めています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後3年半余りが経過した今年度、事業所理念の見直しを行い、その実践と浸透に取り組んでいる。事業所として年間研修計画を策定して身体拘束廃止、虐待防止、権利擁護、プライバシー保護及び接遇、看取りなどの研修を実施しており、正・非正規職員に拘わらず研修の機会を与えるなど、職員のスキル向上へ熱心に取り組んでいる。このことから運営法人が「介護福祉サービスは人材が決め手である」との考えの下、職員養成に力を注いでいることが窺える。目標達成計画についても全体会議の頻度、センター方式の導入など積極的な取組姿勢によって目標以上の成果を上げており、管理者・職員のサービス向上に対する意識レベルは高い。管理者を中心に職員間のコミュニケーションは良好であり、今後の更なるサービス質向上に期待が持てる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関と各ユニットに掲示するとともに、常に携帯し日々意識しながら職員全員が共有・確認し、具体化に取り組んでいます。	法人の3つの理念とホーム独自の2つの理念を掲げている。特にホーム独自の理念である入居者自身の自己決定、つながりを大切に支援を日々のケアに活かせるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り・紅葉祭りに利用者様と参加したり、ボランティアの来訪があったりと、地域とのつながりを深めています。また地域のスーパーへの買い物や喫茶店に出かけたりしています。	自治会に加入し、地域の夏祭りや秋祭りに参加するなど、地域住民との交流ができている。地域のボランティアを受け入れたり、近所の喫茶店に行ったり、買い物等出かけることも多い。また、月に一度介護相談の日を設け対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第三金曜日に空の会を開催しています。見学・相談は随時対応しています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に地域推進会議を開催しています。毎回議題を決め話し合う場を設けています。また日々の様子を写真付きの文章で確認して頂き、意見交換しサービスの向上に努めています。	2ヶ月に一度入居者、家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センターの職員、協力医療機関の方々をメンバーに状況報告、意見交換等を行い色々な角度からサービスのあり方を検討し向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域推進会議に地域包括支援センターの方との情報交換をしています。今年は姫路市主催のキャラバンメイト認知症サポーターの講習を当施設で実施し職員全員がオレンジリングを習得しています。	地域包括支援センターとの連携や介護保険課への相談等随時行っている。姫路市の地域密着型事業所連絡会に出席し、他事業所との関係も構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の定例研修会では知識を向上しています。東ユニット・西ユニットや居室・事務所など施設せず自由に行き来できるようにしています。外出希望者は一緒に散歩へ出かけたり、買物へ職員同行で出かけています。	研修によって、身体拘束による弊害などの理解を深め、帰宅願望が強い時や不穏時は、散歩や買い物に行くなどの気分転換を図っている。適宜、見守りセンサーを活用し、抑圧感のない入居者の自由な行動を支援している。	現在危険防止のため家族の希望などでセンサーマットを使用している事例もあるが、見守りにおけるセンサーへの依存度や常態化などについては、常に適切な運用とバランスを意識した取組を望みたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員定例研修で高齢者虐待について学ぶ機会を設けています。虐待の種類や発見時の措置方法を周知徹底しています。また社内衛生委員会にてストレスチェックも行っています。	法人内の研修で高齢者虐待についての理解を深めている。委員会の中で職員のストレスチェックを行うと共に、全職員に本やCDの貸出を行い、気分転換を図れるように配慮するなどの工夫をしている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員定例研修で権利擁護について学ぶ機会を設け必要時には活用できるよう知識の習得をしています。	現在は利用者はいないが、必要に応じ利用支援できるようパンフレット等準備している。また、法人内での研修にも参加し、地域包括支援センターの職員にも講師依頼し勉強会を開催する予定もある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書・重要事項説明書・個人情報保護・報酬加算、解約についてもご本人・家族様に分かりやすく説明し納得した上で同意欄に署名、押印して頂いています。	問合せ受付後、見学などを経て申込みに至る際には、内容説明を丁寧に行い、理解納得の上契約を行っている。契約時には看取りについての意向確認を行い、意向に沿った同意書を頂いている。待機者に対しても月に一度は連絡し、状況確認を行っている。また、契約終了時には本人家族の希望を考慮した支援を行っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス向上委員会の取り組みとして利用者アンケートを実施し、サービスの向上につなげています。家族様が面会に来られた時は近況を報告したり、毎月文章にしてお手紙をお渡ししています。	委員会の取り組みの一つとして利用者アンケートを取り、サービス向上につなげている。また、個別に家族からの意見や苦情はトラブル報告書を通じて改善につなげている。また、季節の行事には家族も参加できるようにしている。	季節行事に家族が参加された際、家族同士が交流できる場を設け、意見交換や要望などを吸い上げ、運営に反映できる仕組み作りの検討を望みたい。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員のミーティングで質疑応答の時間を毎月開催しています。職員の意見や提案を聞き、現場に反映させています。	毎日の申し送り、月に一度の職員会議でケアに対する意見交換や法人内の委員会を通じて提案できる機会がある。また、管理者会議でホームでの課題や改善についての意見を報告し、現場に反映できる仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一度、職員個々の努力や実績、勤務状況に対して人事考課を行い、給与及び賞与に反映させています。また労働時間や労働条件、家族環境に合わせて勤務形態も考慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務能力管理表にて職員個々の能力を把握し、段階に応じて育成していく仕組みを構築しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姫路市グループホーム連絡会に参加し同業者と交流する機会を作っています。連絡会では職員同士の交流もしています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時から利用者ご本人・家族様の話を傾聴し本人とのコミュニケーションを図り、安心して頂ける様努めています。また利用者様には個別で担当職員を決め本人の安心に繋げています。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から利用者様及び家族様の話を聞くと共に、家族様の思いや要望を聴取し面談や電話で不安に思っている事など情報収集しニーズにあった支援ができるよう努めています。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時から利用者様及びご家族の求めている支援を見極め何を必要とされているのか判断し他のサービス利用の調整も行っています。また初期にはご家族様にも協力して頂きながら環境に慣れて頂けるよう支援しています。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のADL状況やこれまでの生活層を考慮しながら一緒に家事を行っています。掃除・洗濯・調理・後片付けなど役割を分担して頂いています。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会、外泊、外出は自由にできるようにしています。また毎月必ず一度は面会して頂くようしており共に支えあう関係を築いています。希望により家族様とメールでの情報交換もしています。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけではなく友人や知人も自由に面会していただいています。本人が培ってきた色々な関係を大切にし、継続できるように支援しています。	ホームの理念にも掲げており、それぞれの入居者が今までの関係が継続できるように手紙、年賀状の作成や面会等、馴染みの友人や知人といつまでも交流できるよう支援している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの役割を生かし、洗濯、掃除、調理など協力しながら個々に任せておりません。利用者様同士が共に支えるよう支援しています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても移り住む先の関係者に対して、これまでの生活習慣やケアの工夫等の情報を家族の同意を得て提供しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の一人ひとりの生活歴を知るためにご本人や家族様からの聞き取りを丁寧に行っています。また日常の関わりで、会話や表情から汲み取ることのできる気付きを大切にしています。	センター方式を取り入れ、入居時に詳しくアセスメントし、事例検討シートを用いて検討している。本人、家族から生活や要望を聞き取り、日頃の生活の場面で思いや意向の把握に努めている。把握した希望は家族の協力を得ながら、叶えられるよう支援している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境は家族様やご本人から伺い、基本情報にも記入して頂き、これまでの暮らしを捉えていくよう努めています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方はご本人主体の流れに合わせています。また本人のできる力・できないことを把握してできる力を維持できるよう努めています。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で、利用者様一人ひとりの気付きや暮らしぶりをもとに、職員間で共有し話し合いを行っています。また関係者より情報収集し、現状に即した介護計画作成に努めています。	担当者会議にて本人、家族の要望を取り入れたケアプランを作成し、毎月モニタリングを行い、半年に一度プランの見直しを行っている。月に一度はカンファレンスを行い、職員の担当制とし毎月状況報告を作成し、家族へ送付している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や生活の中で気づいた事柄を記録し職員間での情報共有しています。その中で改善が必要がある事柄を介護計画の見直しに活かしています。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は介護保険サービス外のサービスを必要とされる方や希望される方はおられませんが、その時々ニーズに対応していく方向です。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署や地域包括支援センター、自治会、民生委員との関わりを持ち、地域の人々の力を借りて利用者様の安全な暮らしを支援しています。スーパーの買物や近隣の喫茶店を利用し地域資源を活用しています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人や家族様の希望をお聞きし、家族様の協力によりかかりつけ医を受診していただいています。職員より医師に近況報告を行い、利用者様の状況確認及び情報を常に共有しています。	入居後も本人、家族の希望で主治医は変更せず、継続して受診できるよう支援している。通院介助は必要に応じて家族と共に職員が同行し、状況報告を行っている。また、わかりやすく紙面で報告することもある。協力医療機関では月に一度定期健康診断を受け、入居者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様に変化があった場合はかかりつけ医や協力医に電話相談しています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の利用者様に関しては医療機関への情報を提供しています。また症状や入院中の経過等は家族や医療機関への連絡、退院後の支援について話し合いを行っています。	入院時には利用者の介護サマリーなどの情報提供を行い、入院中には面会に行き、状況把握すると共に入居者が安心して治療が受けられるよう支援している。また、退院時にはカンファレンスに参加し退院後スムーズに生活できるよう環境整備を行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看とりについて説明、同意をいただき共有認識をしています。またご本人や家族様の希望を聞き取り、病状の変更に伴い再認識を行っています。	看取り指針を整備し、終末期に向けての要望書に家族の要望を書面に記載してもらいそれぞれの希望を把握している。看取りの事例はないが、内部研修を行ったり、法人内の看護職員への相談もでき体制は整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の定例研修会で緊急時対応の機会を設けています。社内委員会のAEDの講習・衛生講習会に参加し技術の向上に努めています。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に一度の避難訓練を実施しています。消防署より指導していただき、避難誘導法を身につける訓練をしています。また社内の緊急災害マニュアルも整備され備蓄品も整備しております。	災害時マニュアルを整備し、年に4回火災、自然災害に対する訓練を実施している。地域住民の参加もあり、法人の緊急災害時の安否確認体制や備蓄の整備もされている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員定例研修でプライバシー保護についての学ぶ機会を持ちプライバシー保護に対して自己チェックを行っています。一人ひとりに応じた声かけや対応を心がけて接しています。	定期的に接遇研修を行い、日頃のケアの中での言葉遣い等、職員間で注意し合っている。入浴、排泄等のケアにおいても周りへの気遣いや声かけ、対応に配慮した取組を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を聞きだせるように言葉や行動を観察し語りかけ、自己決定できるよう努めています。また意思表示が困難な方に関しては日々の生活の中でその方の好みを把握し支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活ペースを把握し、無理強いせずその方のペースに合わせた生活をしていただけるよう、支援しています。誕生日には希望をお聞きし、喜んでいただけるようみんなでお祝いをしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服はご本人に決めて頂いています。利用者様の要望でカットや毛染め、パーマを訪問理美容でされ、ご本人の希望に沿っておしゃれして頂いています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	新鮮な食材で手作りし、一緒に準備や片付けをすることで食べる楽しみへとなるようつなげています。家庭菜園で採れた野菜を使用することで、食への楽しみのひとつとしています。	昼食・夕食時、職員と一緒に利用者の持てる力に応じて調理・配膳・下膳・後片付けなどを行っている。家庭菜園で収穫した食材を使用するなど季節のものを味わい、食の楽しみを引き出すように工夫している。職員と利用者は同じ食卓を囲み、共に食事の時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた献立を作り、一人ひとりの状態に合った支援を行っています。個々の状態で食事摂取量や水分摂取量を調整をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行って頂いています。本人の力で困難な場合は職員が口腔ケアを行い、常時口腔内の清潔が保てるように支援しています。食事前には口腔体操を行って、誤嚥予防や咀嚼機能を高めています。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を把握し、利用者様の行動や様子から職員がいち早く察知し、トイレ誘導を行っています。	排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄のリズムと習慣を把握して、その人に応じた声掛け・トイレ誘導を行っている。パットの使用減少の改善事例も見られるなど、自立に向けた排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から便秘にならないよう、ヤクルトやヨーグルトを定期的に摂取して頂いています。また散歩や体操を行い自然な排便ができるよう支援しています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の意向・希望に合わせております。個々に沿った支援をしています。	個室であるが、利用者の希望に応じた入浴支援が行われており、希望すれば毎日でも午前・午後の時間帯に入浴可能である。また湯は一人ひとり入れ替えを行っている。柚子湯を楽しむ工夫などもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時は職員と一緒に過ごし、話をしたり飲み物を飲んだりと安心感をもっていただける支援をしています。また日中であっても、必要に応じて居室で休息して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員が薬の管理を行い、服薬の確認は毎回記録し飲み忘れがないようにカルテにチェックしています。受診時には医師に情報を提供しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて日常生活を共に営む中で役割を持って頂き実践しています。東西の交流をはかり楽しんで頂いています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の公園まで散歩に行ったり、食材の買い物と一緒に出かけています。全員での外出も希望や季節に応じて出かけています。	気分転換や外気浴を兼ねて日常的に近隣の公園に散歩に行ったり、馴染みの喫茶店やスーパーに買い物に行ったりしている。また毎月1回全員で外出する機会を持っており、書写の里・美術工芸館やたつの市そうめんの里、イチゴ狩り、レストランなどに出掛けたりしている。	



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は家族様に金銭管理を行い、毎月報告しています。外出時はその中からお小遣いとして、ご本人が自由に使えるお金を所持して頂き、おみやげや欲しい物を購入して頂いています。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様や友人様からの電話は24時間取り次いでいます。また電話をかけたい時も、事業所の電話を使用して頂いています。希望によって一緒に郵便局で葉書を購入し、葉書を出す等の支援もしています。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビング、ダイニングは天窓が2ヶ所あり、日光の自然な光で明るい空間になっています。また東西のユニット交流もレクなど一緒に行っています。また季節毎に展示物を変え季節を感じて頂けるようにしています。	各ユニットともに1階平屋の建物であり、居間にはそれぞれ掃出し窓があり、ゆったりしている。玄関・居間・台所・トイレ・浴室などの共用部分は光・温湿度・音・においは適度に管理され、清潔感がある。壁には行事・外出時の写真、干支の大きなちぎり絵、利用者の絵画作品などが飾られており居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有リビングには、ソファを設置し少人数で過ごせる場所を作っています。またリビングを囲むよう居室があるので、一人になりたい時は安心して過ごして頂けるようにしています。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には日頃から利用者様が使い慣れた物を持ち込んでいただき、ご本人が居心地よく過ごせるよう相談しながら環境を整えています。	居室は窓が大きく明るい。利用者の馴染みの写真立て・置時計・物入れなどが持ち込まれ居心地よく過ごせる配慮がある。緊急時対応のために天井にセンサーが設置され、室外で利用者の離床、現在位置をランプの色で把握できるようになっており、職員・利用者家族に安心感を与えている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立して安全に過ごしていただけるよう、個々の状況に合した環境づくりをしています。		